

# 新年記念俳句会優秀作品

平成二十五年 一月二十八日

## 「秋桜（コスモス）」

### 特選

コスモスの 海をゆらして 風の路

恒 輔（草野恒輔）

街道の コスモス誘う 旅心

颯 子（熊倉高志）

コスモスに 癒されながら 畑をうつ

宅 秀（佐藤秀夫）

秋桜 百恵の唄を 口ずさむ

茶 奉 人（星野健司）

（秋桜に 百恵の唄を 口ずさむ）

コスモスの そよぐ風音 鱗雲

武 醉（鈴木 武）

誇らしく 時に優しき コスモスよ

彦 山（馬場信彦）

秋桜の 道端心の やすまるゝ

正 月（坪井正康）

### 佳作

風になびき コスモス揺れる ロードやまなみ

（風なびき コスモス揺れる やまなみロード） 正 明（野崎正明）

風吹きて 揺れるコスモス 山の波

爽 木（佐々木常行）

コスモスを 観る人もなし 休耕田

征 夫（丸山征夫）

コスモスの一輪残り 風の後

一 陽（田中悌司）

愛おしい 薄き花びら コスモスよ

（長橋）

## 「今年酒（新走り）」

### 特選

溢れ出た 受け皿すする 今年酒

爽 木（佐々木常行）

天からの ご褒美一献 今年酒

颯 子（熊倉高志）

軒先に 杉玉飾る 今年酒

茶 奉 人（星野健司）

（軒先に 杉玉飾り 今年酒）

新年に 誓いし心 今年酒

正 明（野崎正明）

新春に 香り楽しむ 今年酒

喜 江 子（葦澤喜一郎）

新走り 酒量が落ちて 味を知る  
今年酒 下戸の知らない 幸せかな  
(今年酒 下戸には知らない 幸せかな)

恵 介 (滝口恵介)  
一人静 (荒澤威彦)

喪の明けし 父の思い出 今年酒  
(喪が明けて 父の思い出 今年酒)

征 夫 (丸山征夫)

ご祈祷の 冷たき土器(かわらげ) 今年酒  
子供らと 新年語らい 今年酒

武 醉 (鈴木 武)

清々し 巢立つ子と飲む 今年酒

宅 秀 (佐藤秀夫)

### 佳作

下戸なるに 一杯が二杯の 今年酒

一 陽 (田中悌司)

なまけもの 新走りだけは 勢いあり

孝 史 (松崎孝史)

今年酒 顔もほころぶ うまみにて

正 月 (坪井正康)

(今年酒 顔もほころぶ 去年今年)

今年酒 家族で囲む 鍋の味

秀 夫 (大溪秀夫)

父の忌や 一本献ず 新走り

彦 山 (馬場信彦)

近づきし 父の命日 今年酒

彦 吳 (鈴木圀彦)

## 「鮭(塩引鮭)」

### 特選

つかみどり 鮭も踊れば 子も踊る

孝 史 (松崎孝史)

朝霧の 水面に跳ねて 鮭帰る

秀 夫 (大溪秀夫)

(朝霧や 水面に跳ねて 鮭帰る)

塩引の 皮を湯に入れ 婆すする

武 醉 (鈴木 武)

塩引に 思い出しけり 祖母の顔

祐 介 (高橋祐介)

(塩引で 思い出すのは 祖母の顔)

塩引鮭 蔵に吊るされ 圧倒し

正 明 (野崎正明)

年の瀬の 鮭との戦い 出刃を研ぐ

恵 介 (滝口恵介)

(年の瀬は 鮭との戦い 出刃を研ぐ)

県北に 塩引鮭の 逆さ吊り  
五十嵐川 鮭の背びれが 見えかくれ  
三面に 軒下の鮭 きらきらと  
いつまでの 命ぞ鮭の 帰る川  
(いつまでも 命ぞ鮭の 帰る川)  
神棚に 塩引鮭を ひとつあげ

### 佳作

寒風に さらして食す 鮭うまし  
(寒風に さらされ食す 鮭の味)  
行く年を かさねて食す 鮭なます  
鮭供え 柏手打つて 無事祈願  
(鮭供えて 柏手鳴らし 無事祈願)

思い出す 風呂場に吊るした 塩引鮭  
塩鮭を 吊るし期を待つ 日本海

茶奉人 (星野健司)

彦 山 (馬場信彦)

彦 吳 (鈴木圀彦)

彦 吳 (鈴木圀彦)

一人静 (荒澤威彦)

範 夫 (坂井範夫)

範 夫 (坂井範夫)

宅 秀 (佐藤秀夫)

喜江子 (葦澤喜一郎)

爽 木 (佐々木常行)

### 選者吟

かん うん  
看 雲

(武藤昭三先生)

秋桜 休診の昼は お茶漬けで

寒風に 二週吊るして 銀の鮭

新酒盛る 一合升に 塩の山

